



夕刊
日八十二月一
行發日八十二月一
東京新聞社
電話三〇八〇
（刊休日翌日祭曜日）
香五六日八〇一東京特報

蟲様突起の小瓶

中村生

「承前—」
「これも同じ人ですかしをさへ入する私の分身の...」
「いや、わたしはまた、隣...」
「太い脚を指さした...」
「異ひます。この方は確しき日の手術室の上で、...」
「何が困りました。職人さんと見られた赤く黒く青...」
「やうな方でしたわ。」
「いや、この毛の毛でなくて、いつかすつか...」
「たつづくに、この身の毛の毛でなくて、いつかすつか...」
「立つ外科病院の戦利品？物では無く、いつかすつか...」
「語は盡きない。そして自分も髪を剃って、まるで豚...」
「いつかこの手荒い話に慣れたのやうな白い一塊の...」
「して。着る時、痛痒は思ひ出...」
「したやうに狂った聲をあげて、私はしみじみした...」
「た...」
「さうさ、あなた、あなた、あなた、あなた、あなた...」
「突如とありますわよ。見せよ。見せよ。見せよ...」
「あ、どうぞ...」
「あなた、あなた、あなた、あなた、あなた...」
「八月、此の邊に於て...」
「！」「Yさん、一緒に...」
「棚の上に並べられた奥の...」
「のやうに白い小瓶の列をつ...」
「ごつごつと、是れですか？」
「あ、是れですか？」
「しは問もなく、棚の中程...」
「レツナルの上に自分の名を...」
「発見することが出来た。忘...」
「れもしない。お、と手術の...」
「日も記されてゐる...」
「これが僕の腹から出た...」
「かなあ？私は、窓の日に...」
「の小瓶を透かした。そして...」
「アルコールの中に少しくゆ...」
「がんである白い小瓶のや...」
「なものを見た。憎々しくも...」

高橋是清

小 説
松浦泉三郎作
佐々木今朝吉書
終 曲 (二)

本非は密葬後二十餘日を...
終 曲 (二)

今日への訓へ

哲名 山人

人は「今生の思ひ出で...」
「今日への訓へ...」
「仕事やなすきである、そ...」
「して明日もまたその覚悟で...」

関井嶽初護摩

伊藤 山子

松嶺が夢となりゆく年籠り...
「初護摩の御火にかぎし...」
「初護摩の御火にうつら...」
「初護摩の御火にうつら...」

次回連載講談豫告

愈々三十日かり掲載

目下本紙に連載中の讀物...
「は愈々近日中に絶筆...」
「浴びて完結を告げます...」
「更に一層の拍手喝采を...」
「起すべき興味と、種々...」
「詮議の結果、引續いて...」
「一大雅篇を御清鑑に供...」
「事と致しました。」
「ありふれた講談とは...」
「人として口演した事のない...」
「本當に『取つて置き』の材...」

妖刀流轉

邑井貞吉師演

妖刀流轉...
「或は汗を握らしめ、或は...」
「涙の拭ひ切れぬを嘆せしめ...」
「涙の拭ひ切れぬを嘆せしめ...」
「涙の拭ひ切れぬを嘆せしめ...」

送大高君出

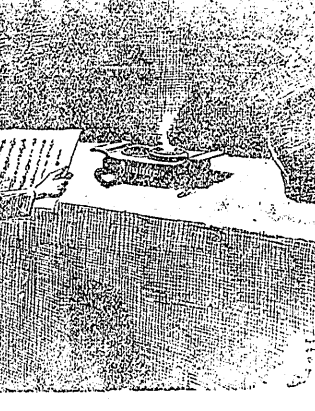
警備南支

送大高君出...
「依り先頭は葛大佐持持の...」
「動位菊花大校章、佐保、各...」
「口前御守の所持する旭...」
「日桐花大校章、瑞寶章、そ...」
「して、深井、川越、瑞寶章...」
「子未亡人等、他警備委員...」
「三十名の自動車連を、式...」
「場に、向つた。」
「御儀は午後三時三十分か...」
「曲罷せられた。」
「正二位大勳位高橋是清之...」

燒香をすました。續いて...
「字通り黒山を築く程の多...」
「後陛下御使御留守官...」
「太田御使御留守官...」
「王公家の更替が次々に...」
「行はれた。」
「廣田首相、馬場首相の...」
「廣田首相、馬場首相の...」
「廣田首相、馬場首相の...」
「廣田首相、馬場首相の...」



本誌は密葬後二十餘日を...
終 曲 (二)



高橋是清の肖像

古着に値上り

多数取揃ふ

古着に値上り...
「物價は暴騰して、古着...」
「物價は暴騰して、古着...」
「物價は暴騰して、古着...」

北川外科

北川 芳夫

北川外科...
「外科一般 内臓外科...」
「外科一般 内臓外科...」
「外科一般 内臓外科...」

明雲堂眼科醫院

明雲堂眼科醫院...
「看護見習募集...」
「看護見習募集...」
「看護見習募集...」

天板板、ベニヤ板買ふなら

天板板、ベニヤ板買ふなら...
「天板板、ベニヤ板買ふ...」
「天板板、ベニヤ板買ふ...」
「天板板、ベニヤ板買ふ...」

諸機械製作販賣

諸機械製作販賣...
「田邊製作所...」
「田邊製作所...」
「田邊製作所...」

花柳病科

花柳病科...
「花柳病科...」
「花柳病科...」
「花柳病科...」

婦人科

婦人科...
「婦人科...」
「婦人科...」
「婦人科...」

伊藤石炭店

伊藤石炭店...
「伊藤石炭店...」
「伊藤石炭店...」
「伊藤石炭店...」

大見切、大奉仕!

大見切、大奉仕!
「大見切、大奉仕!...」
「大見切、大奉仕!...」
「大見切、大奉仕!...」

物價暴騰の折なれど
友 仙 地 1.20-2.00
地 地 2.00 均一
ムール 1.50-6.00
ムール 4.00-11.00
市價相場より二割-三割の安値
是非御来店御待ち致して居ります

ツルヤ 電一四〇

進學(三) 家庭生活

各方面へ明るい門出

櫻ヶ丘集立ち後の志望調

四 共立女子専門 帝國
女子高等 日本女子高等
女子高等 戸板裁縫二
商業各三 宮城同上各一
日本女子大 東京女子
十名途中の慶 官衛社事務員三〇 家
子専門 東北女子職業
昭英學園 東京女高師
昭英學園 東京女高師
昭英學園 東京女高師

非常時 日本大演説會

政會春秋が明夕 聚樂館で

雑誌「政界春秋」社遊説部今度の對策に就き廿七日午
主催の非常時日本批判大演説一時より協賛會を開いた
説會は過激來各地を巡回回
る處聴衆の血を湧かせ平
でも明二十九日午後六時半
から聚樂館で開演するが辯
士、演説次の如く會費は十
五圓である

私財を寄附

募財を寄附 郡下左記諸氏は夫々面書私
財を寄附したるに於て此
縣から褒状を贈られた
三月十日平町 上川村會を極めた

畜牛結核

郡下の検査日割

縣では畜牛結核防疫のため
左記日割により通乳用牛外
國種牛及雜種牛の検査を
一昨廿六日午後三時より
町農協組合の新年宴會は
一昨廿六日午後三時より
町農協組合の新年宴會は
一昨廿六日午後三時より
町農協組合の新年宴會は

親娘に同情集まる

美はし乙女等の純情

昨二十七日の夜、工廠職夫を募集したつたが
丸焼りにあつた平 此程應募三十三名で締切つ
町古鍛冶町日雇屋、近く採用試験を行ふ管
矢澤幸太郎(五)は第二小學校が本縣からは五十名採用
校四年生の長女キヨ(二)と
親子二人つきの暮し、昨
年五月母に死別したキヨ
んは父を扶けてマメに働い
てた孝行娘、家財道具も
失つての空室に棲りてゐ
るのに同情した平署の警官
數名は小遣金、衣類等を返
み、キヨさんの同級生もい
ま一人二錢宛出合つて氣
の毒なきキヨさんを慰めやう
としてゐる

踏んで七十里

故郷戀しの十一少年

昨二十七日午後三時、平署の温情で救はる

時頃平町本通り 反響は五圓の罰金に處す
を横領のナンバと云ふ厳しいお達しをした
を横領のナンバと云ふ厳しいお達しをした
を横領のナンバと云ふ厳しいお達しをした
を横領のナンバと云ふ厳しいお達しをした

情痴の一撃に三ヶ月

半島人同志の傷害求刑

十日程前迄横須賀市の某湯
屋で小僧をし活動見物に行
つての歸途急に親許が轉り
つたが、約七十里の道を
つらつら、約七十里の道を
つらつら、約七十里の道を
つらつら、約七十里の道を

贈答品廢止

四倉署で嚴達

四倉署では二十六日午後
開延、警察で陳べた殺意も
検事局での脅迫の意志もな
い前科から唯夢中の行為だ
と辯じたが櫻井検事は町八
幡小路で縣から成田技

老賊の訓戒に

共謀男更生を誓ふ

既報「鎌田町の木」昨年五月相前後して福島刑
貨倉三河屋で捕は務所を出獄するや兩名共謀す、その代り年若い金澤を
生れ前科七犯金澤もものだが申し立に符合しに首をなだれた金澤の方に
忠告(三)と共謀のなき点があつたので取調の向き直り
老賊宮城縣名取郡 藤原司法主任は昨二十七日
若沼町生れ前科十司法室で兩名を對決せしめ
「今日こそ苦しみである妻
子の面倒を見てやらねば
駄目だ」

大勢は横山助役

昇格の空氣濃厚

勿來町會は昨廿七日は當面の問題たる町長選
來 日午前九時より開選に關しては何等具體的
備、目下植田中山組の手で協議はなかつたが前後の
工事中の尋高小學校舎増築 空氣から観て現助役横山太
工事上模範式を來月二日舉行 一氏の昇格は殆ど決定的
する事決定、午後から全日中選挙開選を聞き正式
議員が縣田川改修九面海岸決定するものと見られて居
船泊各工事現場を視察した

町村の内閣色々

政界春秋社遊説部長
縣師範二部九 日赤看護
婦養成所五 東京女子高
師 實踐女子専門學校各
小岩 章次氏

なほ陣痛續くか

選挙形式に就て紛紜

川部村では去る七時ありな一同村助役芳賀
部 五日村會を召集村長芳賀氏が出縣詳細報告の
長選挙の結果明元吉氏當選上當局の指示を受け歸村し
したが、その形式に違法のたが未だ村長の登壇を見ず

求人口が減少

平署紹介所の昨年中に於

求職者増加

男	計
二、五	二、三
二、三	二、二
二、二	二、一
二、一	二、〇
二、〇	一、九
一、九	一、八
一、八	一、七
一、七	一、六
一、六	一、五
一、五	一、四
一、四	一、三
一、三	一、二
一、二	一、一
一、一	一、〇
一、〇	九
九	八
八	七
七	六
六	五
五	四
四	三
三	二
二	一
一	〇

我等の講堂建設に

意氣込む平商友會

募財寄附金はや一萬圓

なかつたので募財の方もは反對に七十四名増加して
一時休んでゐたが今後は
目標がきまつたから
一層馬力をかけるぞ
の如く愈々敷地の決定した
中商業學校と共に建設され
る講堂資金を昨年六月以來
宝橋會長以下幹部一同が東
京、磐城、湯本の三支部と
連絡募集に奔走して來たが
はや卒業生からの八千三百
圓と在校生の千七百圓を合
計し約一萬圓以上つてゐる、
から五圓以上、在校生から
敷地確定に關し諸橋會長は三
圓以上を募つて居るものと
今まで肝腎の敷地が決ら

満洲國警

同所では局に於て行ふ大藏省普通試
士募集 目下來年試験の圖書締切は今年三十一
處滿洲國警士志望者の願書 日て試験科目左の如し
者は詳細同所て問ひ合せの
上来る三十一日迄申込まれ
たい

四倉信組

四倉信用 四倉信用
配當一分 組合では
昨報の如く昨二十七日小
校に第十六回總會を開き
で年令二十二才以上二十
七才迄、徴兵検査の概
準体格を有し五ヶ年以上
勤続し得るもの、志願書
氏並十七年の事務員宮内
氏に夫々記念品を添へて
表彰尚配當一分を決定した
衣類、補給品、栃木縣上
都賀郡南原村生れルンペ
ン橋本傳三郎(五)は二十六
日双葉郡久の濱町で衣類
數件を働き二十七日四倉署
に檢舉

天候豫報

(小名浜測候所発表)

今晩も明日も北東の風
曇後雨又は雪

御贈答品には

吉田眼科醫院

平町新川町一四林秀壽(五)
は此程店子の歸國平三郎
は此程店子の歸國平三郎
は此程店子の歸國平三郎
は此程店子の歸國平三郎

安齊醫院

電話 八六二

平牛乳舎

平町、九品寺前

平牛乳舎

電話 八六二

平牛乳舎

平町、九品寺前

安齊醫院

電話 八六二

平牛乳舎

平町、九品寺前

安齊醫院

電話 八六二

平牛乳舎

平町、九品寺前

安齊醫院

電話 八六二

平牛乳舎

平町、九品寺前

安齊醫院

電話 八六二

平牛乳舎

平町、九品寺前

安齊醫院

電話 八六二

平牛乳舎

平町、九品寺前

安齊醫院

電話 八六二

平牛乳舎

平町、九品寺前

安齊醫院

電話 八六二

平牛乳舎

平町、九品寺前